

# 活動指導案

実践団体名 田井新町自治会(自主防災会)

## ■基礎データ

① タイトル

田井新町の住民による水害対策

② 活動の概要

総合的な水害対策を実施する。ソフト対策として、日頃から地域の絆づくりを行い、その結果、大雨時には住民の自発的な助け合いで、地域の危険箇所に住む住民を守る。ハード対策として、大和高田市や近鉄と交渉し河川改修を実施し、自治会では防災無線を設置し情報発信手段も確保する。

③ 目標・ねらい

水害から死者を出さない

④ 活動で上げることが  
できる力・能力

防災意識の向上  
ハード、ソフト両面から地域防災力の向上

⑤ 対象者（受ける側）

田井新町の全住民

⑥ 活動・作業形態

ソフト事業：平常時はふれあいプラザ事業などによる絆づくりや災害危険箇所の把握、大雨時は土のう積み、止水板設置支援  
ハード事業：市役所・近鉄等との交渉による河川改修事業、自治会では防災無線の整備

⑦ 準備するもの  
（道具、材料等）

ソフト事業：洪水ハザードマップ、土のう、止水板（手作り）  
ハード事業：防災無線の機器

⑧ 所要時間

ソフト事業：ふれあいプラザ事業は1講座月1半日程度、災害時の土のう・止水板設置は大雨時に半日程度  
ハード事業：市役所との交渉は年数回

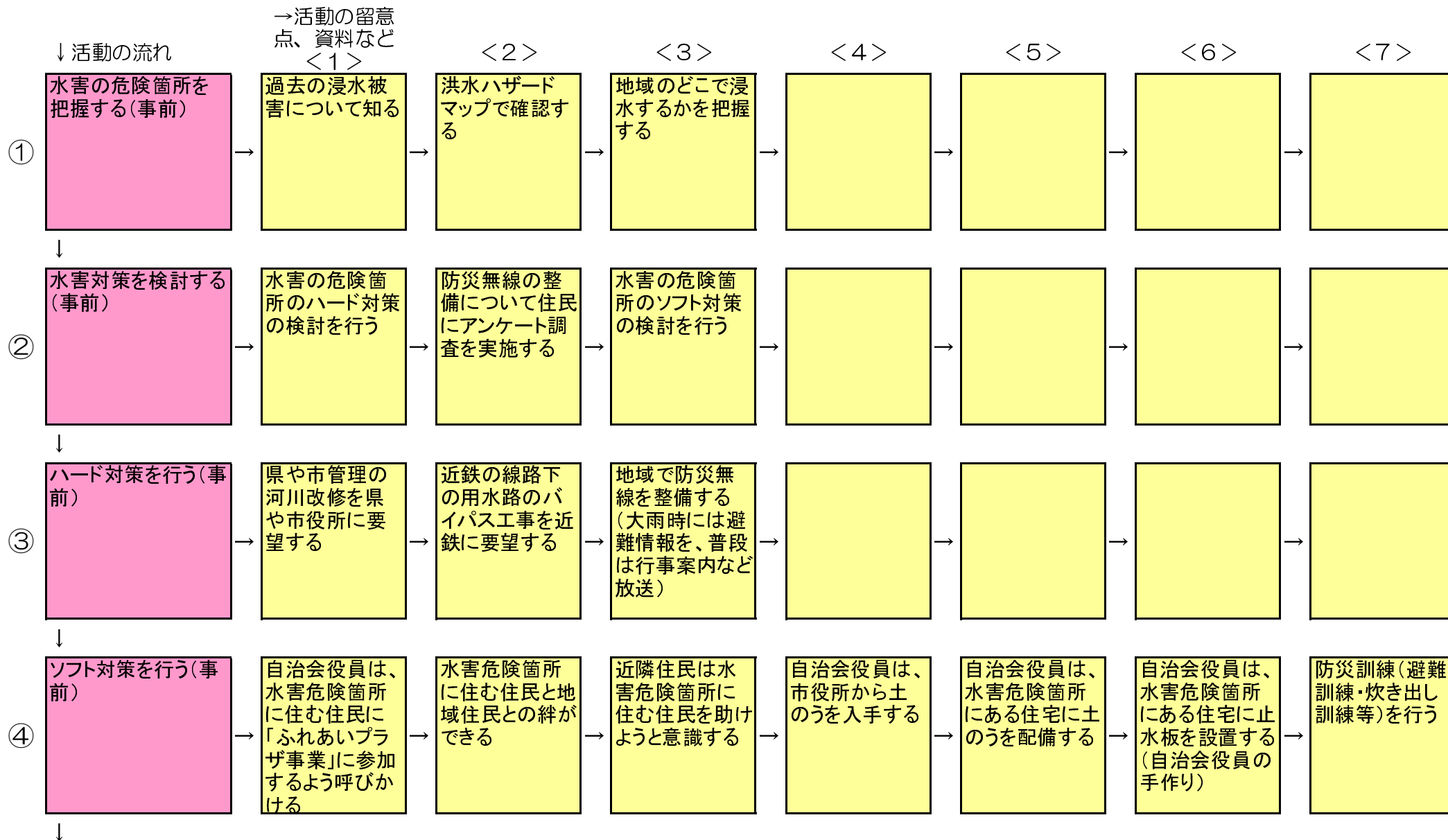
⑨ 必要なマンパワー  
（実施者、役割、人数）

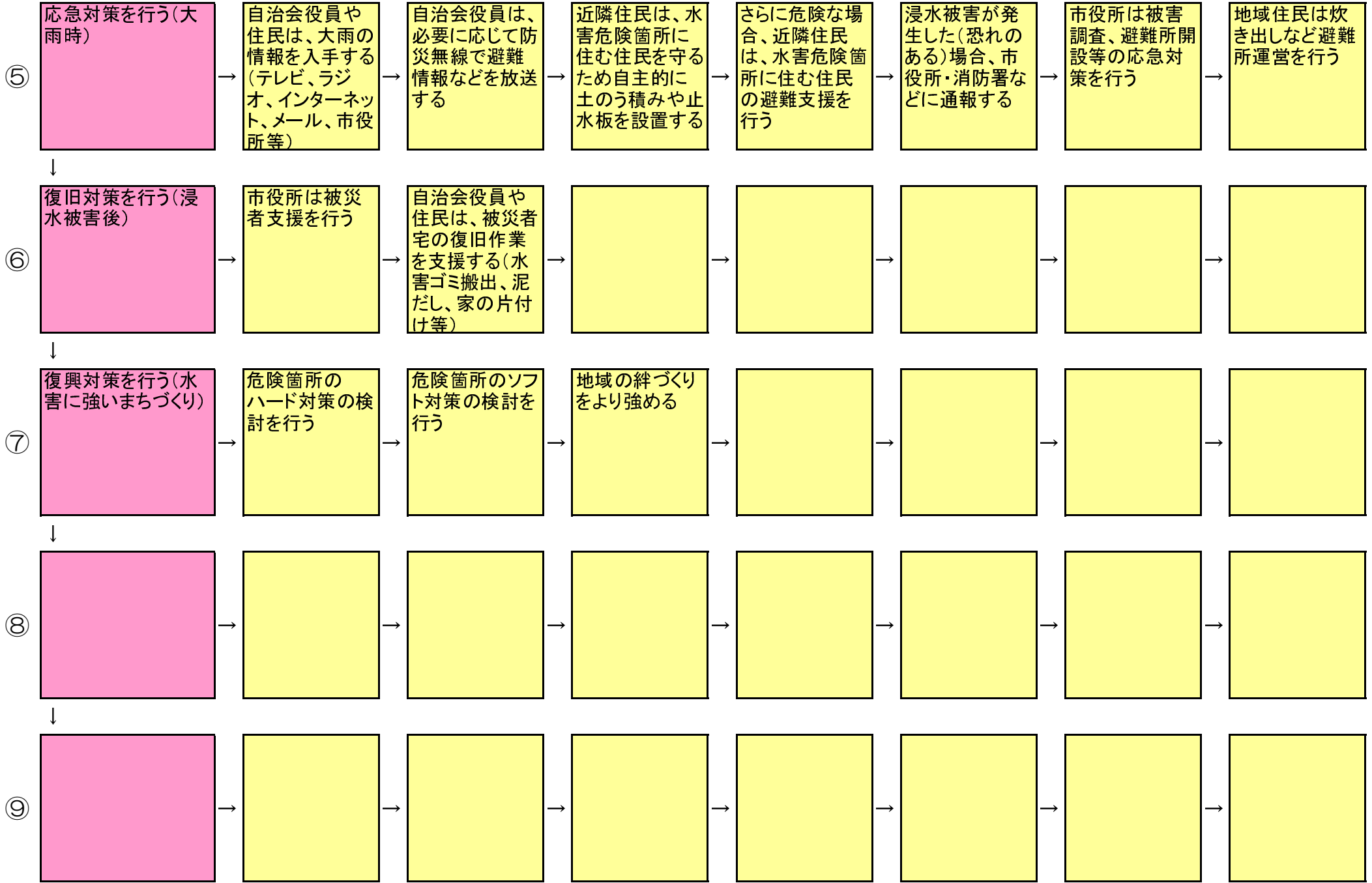
ソフト事業：ふれあいプラザ事業は全住民対象、災害時の土のう・止水板設置は近隣住民有志  
ハード事業：自治会役員

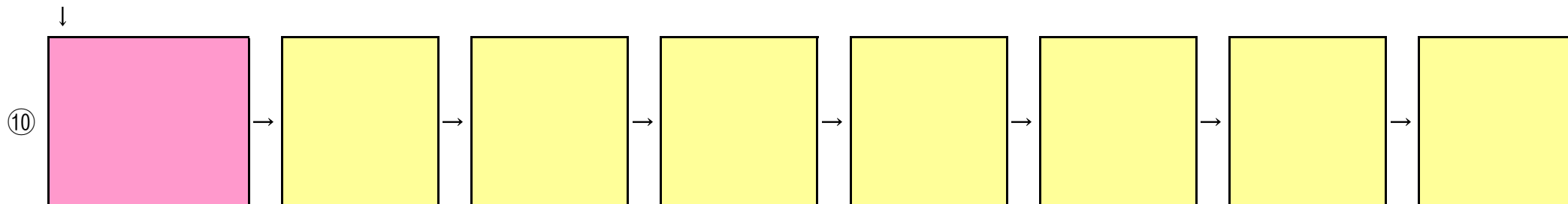
⑩ 必要経費  
（所要額、財源）

ソフト事業：ふれあいプラザ事業は自治会経費と自己負担、土のうは市役所から提供、止水板は自治会（自主防災会）役員の手作り  
ハード事業：河川改修は市役所・近鉄等が費用負担、防災無線は整備費 約75万円（内市役所の補助金18万円、残額自治会費）

## ■活動の流れ







## ■活動の評価方法

### ①数や量の変化による評価

- 水害発生件数・死者数
- 防災訓練の参加者数

### ②その他の評価

- 防災意識の向上
- 土のう積みなどのスキルアップ

## ■備考・その他（活動のコツなど）

### ①活動のコツなど

- 日頃からふれあいの絆づくりができていてこそ、災害時に助け合いができる
- 市役所などの河川改修は計画的に実施されるよう要望する

### ②参考資料等

- 大和高田市洪水ハザードマップ

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

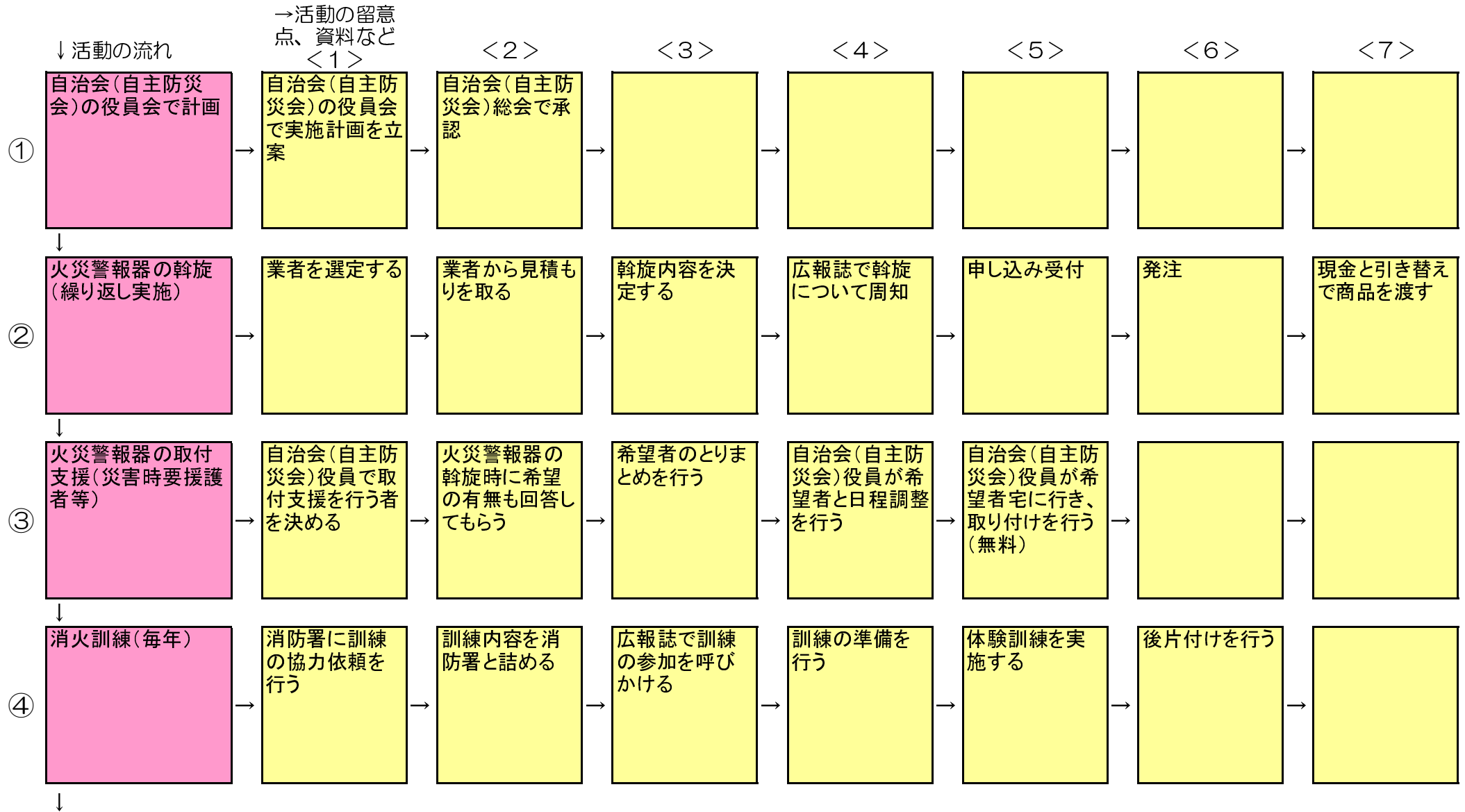
# 活動指導案

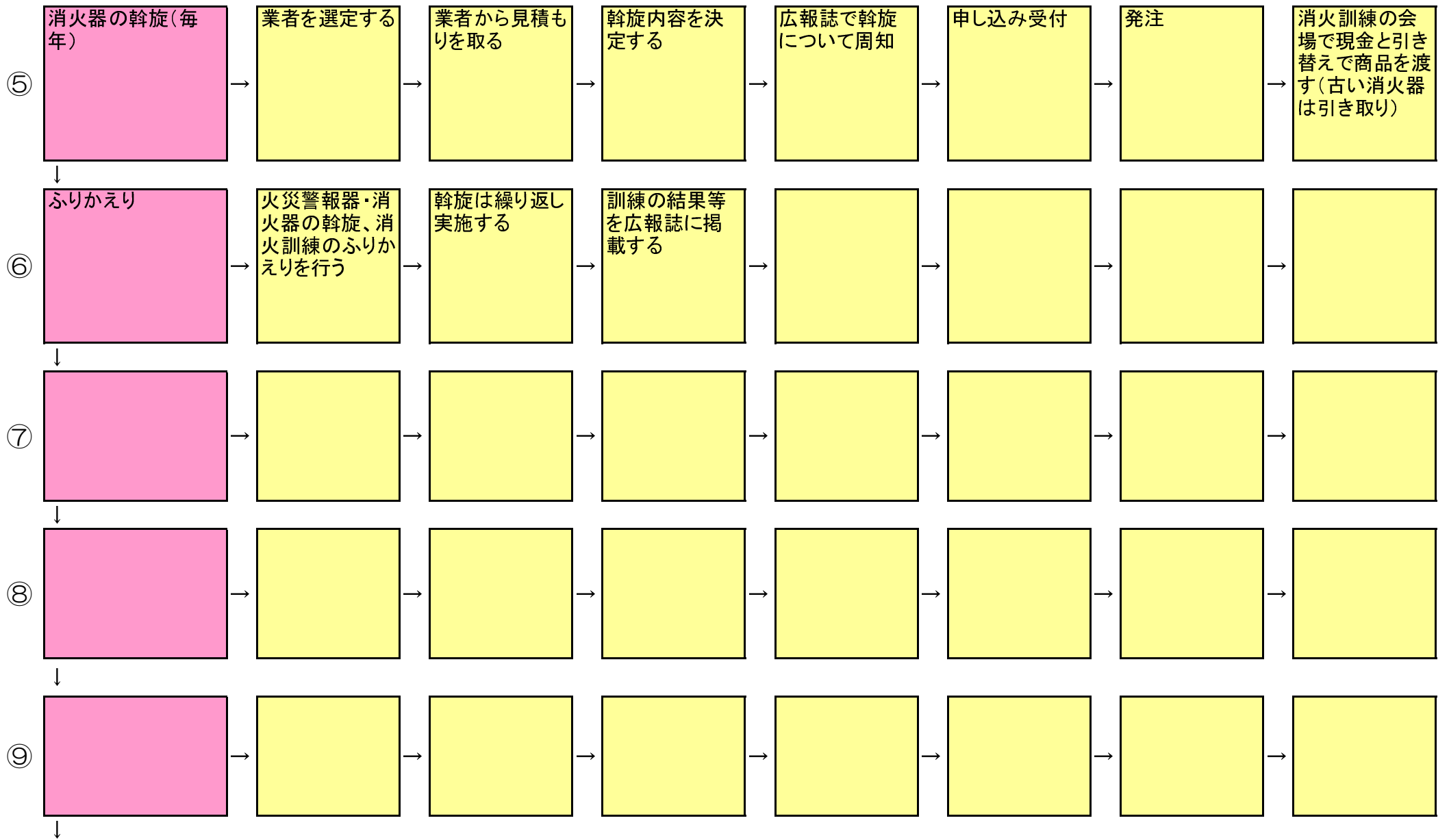
実践団体名 田井新町自治会(自主防災会)

## ■基礎データ

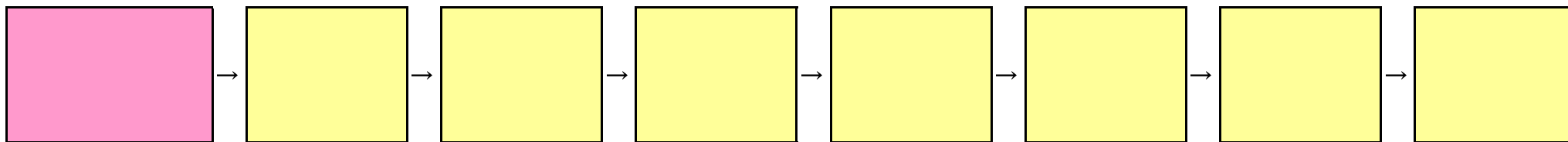
- |                           |   |
|---------------------------|---|
| ① タイトル                    | 火災警報器・消火器の斡旋と消火訓練で火災に強いまちづくり  |
| ② 活動の概要                   | 自治会(自主防災会)の取り組みとして火災警報器や消火器の斡旋、消火訓練を行い、地域ぐるみで火災対策を実施する。火災警報器の斡旋時に、災害時要援護者などの希望者には取り付けも自治会(自主防災会)で行う。  |
| ③ 目標・ねらい                  | 日常時や、地震などの災害時に、火災を発生させない。発生しても初期消火を確実にできるよう地域ぐるみで取り組む。火災による死者を出さない。   |
| ④ 活動で上げることが<br>できる力・能力    | <input type="checkbox"/> 防火意識の向上<br><input type="checkbox"/> 初期消火のスキルアップ  |
| ⑤ 対象者(受ける側)               | 田井新町の全住民  |
| ⑥ 活動・作業形態                 | <input type="checkbox"/> 災警報器や消火器の斡旋<br><input type="checkbox"/> 消火訓練(実技・体験)  |
| ⑦ 準備するもの<br>(道具、材料等)      | <input type="checkbox"/> 災警報器や消火器の見本、広報誌への掲載記事・写真<br><input type="checkbox"/> 消火訓練用の水消火器 等  |
| ⑧ 所要時間                    | <input type="checkbox"/> 啓発(広報誌記事作成): 半日<br><input type="checkbox"/> 斡旋(取りまとめ): 半日、 <input type="checkbox"/> 斡旋(配布): 半日、 <input type="checkbox"/> 斡旋(希望者への火災警報器取付): 半日<br><input type="checkbox"/> 消火訓練: 半日 |
| ⑨ 必要なマンパワー<br>(実施者、役割、人数) | <input type="checkbox"/> 啓発(広報誌記事作成): 1人<br><input type="checkbox"/> 斡旋: 1人、 <input type="checkbox"/> 斡旋(火災警報器の取付): 1人<br><input type="checkbox"/> 消火訓練: 規模により異なる   |
| ⑩ 必要経費<br>(所要額、財源)        | <input type="checkbox"/> 啓発(広報誌記事作成): 0円(広報誌の予算内で対応)<br><input type="checkbox"/> 斡旋: 0円、 <input type="checkbox"/> 斡旋(火災警報器の取付): 0円<br><input type="checkbox"/> 消火訓練: 0円(防災訓練の予算内で対応)                        |

## ■活動の流れ





⑩



## ■活動の評価方法

### ①数や量の変化による評価

- 火災発生件数・死者数
- 火災警報器・消火器の普及率
- 消火訓練の参加者数

### ②その他の評価

- 防火意識の向上
- 初期消火のスキルアップ

## ■備考・その他（活動のコツなど）

### ①活動のコツなど

- 火災警報器や消火器の普及・斡旋は、くりかえし啓発していく必要があり、広報誌に何回も掲載する
- 火災警報器や消火器の斡旋は、信頼できる業者から見積もりを取る。古くなった消火器は引き取ってもらう。
- 火災警報器の取り付けが困難な住民（災害時要援護者など）には、自治会（自主防災会）役員が斡旋時に取り付け支援を行う。

### ②参考資料等

- 火災警報器の普及率の推計（平成22年6月時点）：○奈良県 50.5%、○中和広域消防本部管内 48.5%、○田井新町 70%
- 出火率（平成20年）：○奈良県 3.3%、○大和高田市 2.5%
- 死者数（平成20年）：○奈良県 13人、○大和高田市 0人

※ 活動指導案作成のための準備物：①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

# 活動指導案

実践団体名 田井新町自治会(自主防災会)

## ■基礎データ

① タイトル

ふれあいの絆を深めて安全・安心の自治会活動(ふれあいプラザ事業)

② 活動の概要

防災・防犯などの安全・安心まちづくりを行うには、普段から地域の絆づくりが重要であり、町内の各団体が協力し4大事業を展開(毎月開催)する。

①男性料理教室(第1日曜日昼)、②パソコン教室(第2日曜日午前)、③世代間交流「ふれあいサロン」(第3土曜日午前・午後)、

③ 目標・ねらい

自治会と各団体が協力し、向う3軒両隣でふれあいの絆を作り、自助・共助による自主防災・防犯活動が円滑に実施できるようになる  
男性料理教室は、男性一人でも料理ができるようになる

④ 活動で上げることが  
できる力・能力

ふれあいの絆  
男性の生きる力

⑤ 対象者(受ける側)

田井新町の全住民

⑥ 活動・作業形態

多くの住民が参加できるサークル的な教室など

⑦ 準備するもの  
(道具、材料等)

調理器具、パソコン、ネット回線、カラオケ設備(通信)、防災設備等

⑧ 所要時間

各事業2~3時間

⑨ 必要なマンパワー  
(実施者、役割、人数)

役員12人で分担

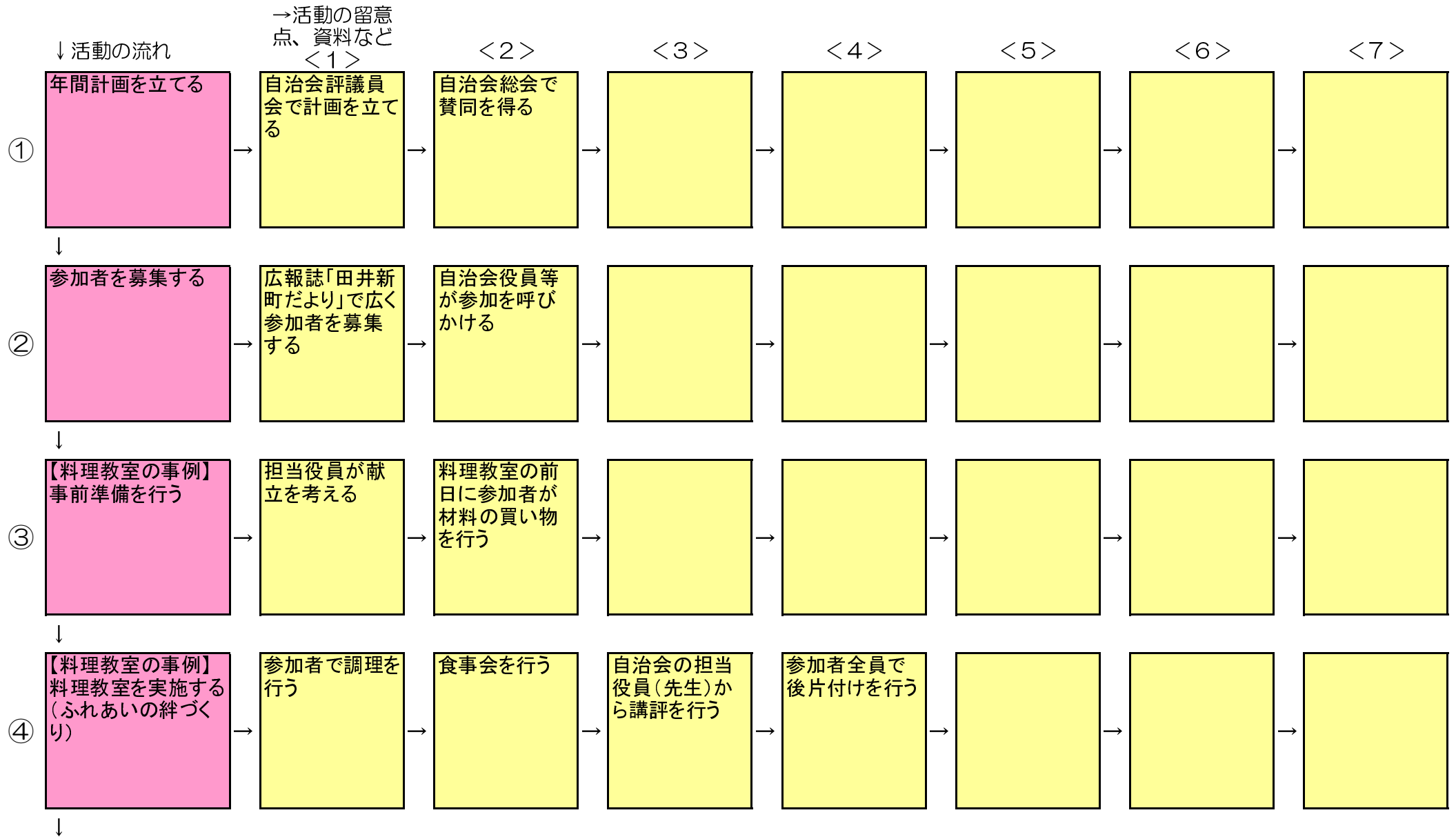
⑩ 必要経費  
(所要額、財源)

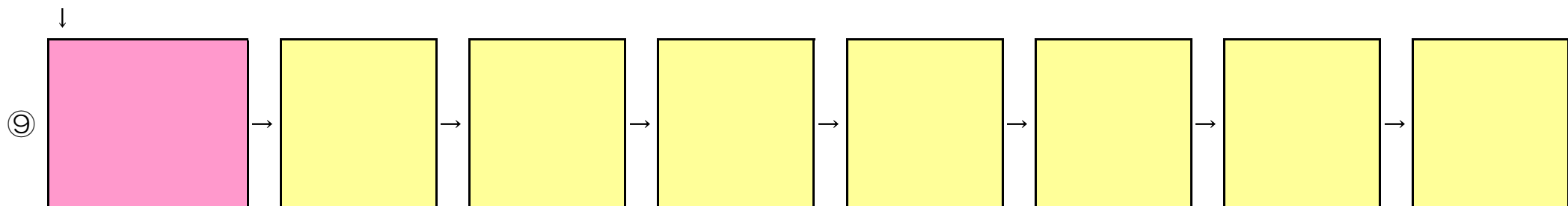
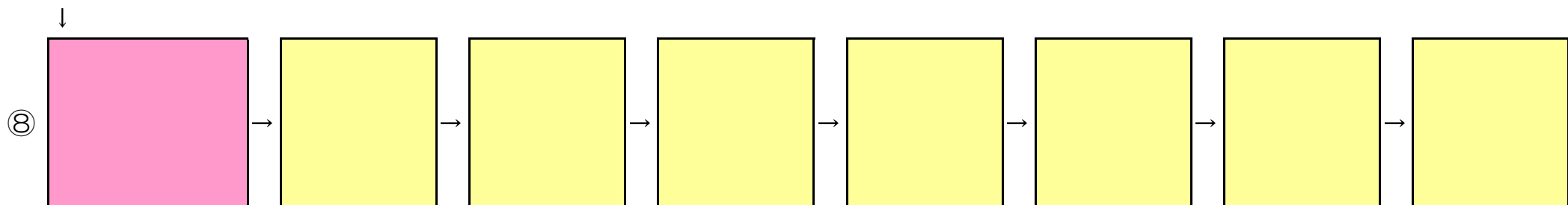
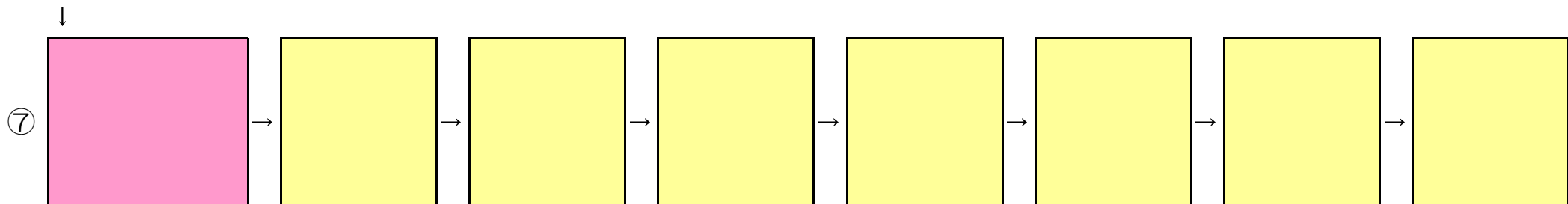
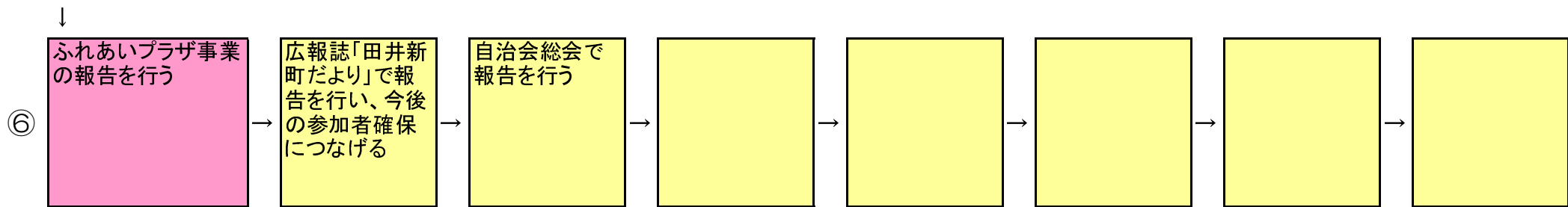
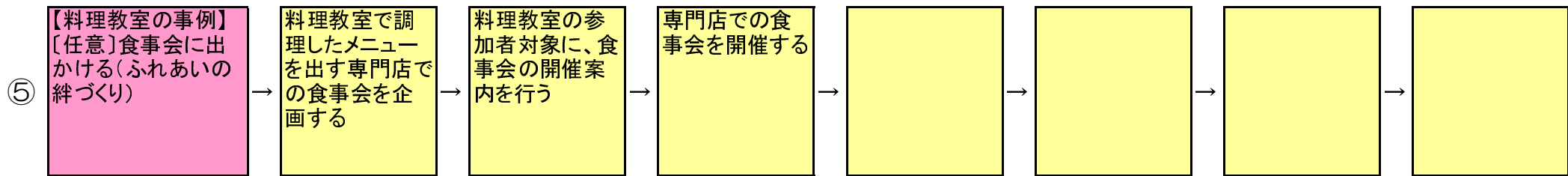
自治会予算 年間47万円

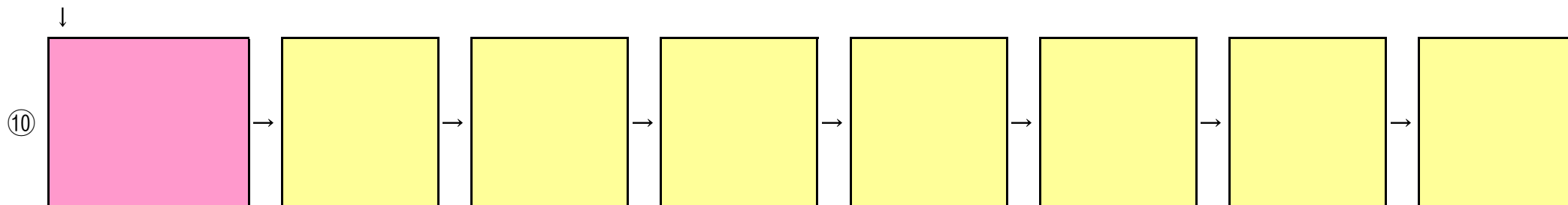
参加者の自己負担

①男性料理教室500円以内、②パソコン教室300円、③世代間交流(ふれあいサロン100円)、④カラオケの集い200円

## ■活動の流れ







## ■活動の評価方法

### ①数や量の変化による評価

ふれあいプラザ事業の参加者数  
 ○老人会 35人→58人、○婦人会 12人→25人、○子ども会 30人→70人

### ②その他の評価

住民に安全・安心まちづくりの取り組みの理解が得られるようになった  
住民に安全・安心まちづくり関連予算の増額が認められるようになった

## ■備考・その他（活動のコツなど）

### ①活動のコツなど

中心になる事業を行う前にアンケート調査を行う  
自治会の広報誌で、ふれあいプラザ事業の開催案内を掲載する  
自治会役員が独居老人等にふれあいプラザ事業の参加を勧める  
老人会が古紙回収に全戸回り独居老人の安否確認を行う

### ②参考資料等

「全国まちづくり情報誌」を購入  
ボーイスカウト指導の経験が役立っている

※ 活動指導案作成のための準備物：①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

# 活動指導案

実践団体名 田井新町自治会(自主防災会)

## ■基礎データ

① タイトル

緊急連絡のための居住者名簿づくり

② 活動の概要

災害時の安否確認や、平常時でも急病人や火災発生など緊急時の連絡体制を確立するため、「居住者名簿」を作成する

③ 目標・ねらい

田井新町自治会の住民の「居住者名簿」を作成し、緊急時の連絡体制を確立する

④ 活動で上げることが  
できる力・能力

緊急時の速やかな連絡体制の確立

⑤ 対象者（受ける側）

田井新町の全住民

⑥ 活動・作業形態

「居住者名簿」作成

⑦ 準備するもの  
（道具、材料等）

「居住者名簿」のカード

⑧ 所要時間

カードの作成期間  
名簿の作成依頼・収集期間

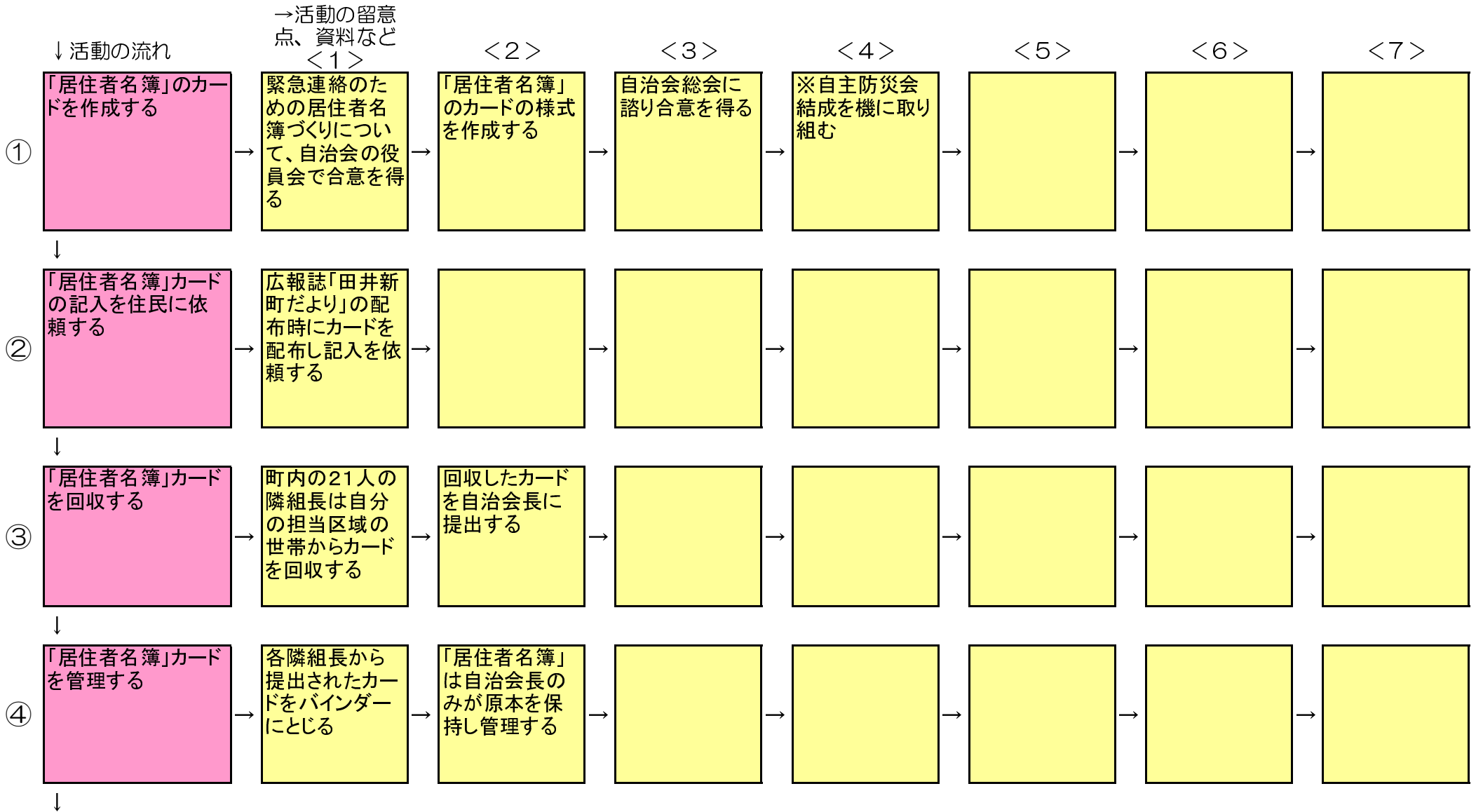
⑨ 必要なマンパワー  
（実施者、役割、人数）

自治会長など自治会役員や、21人の隣組長(自治会の末端組織の役員)など

⑩ 必要経費  
（所要額、財源）

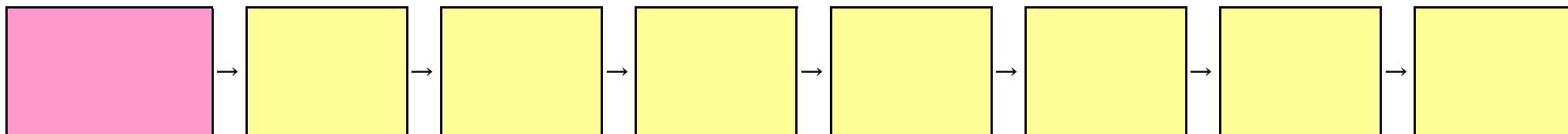
「居住者名簿」のカードの印刷代

## ■活動の流れ





⑩



## ■活動の評価方法

### ①数や量の変化による評価

「居住者名簿」の回収率

### ②その他の評価

「居住者名簿」作成による住民及び自治会長の安心感

## ■備考・その他（活動のコツなど）

### ①活動のコツなど

- 居住者名簿は全世帯から回答いただいている  
定期的な名簿の更新のほか、転入者、転出者、出生者、死亡者の把握に努めている
- 役立つ名簿にするため、携帯電話の番号も把握している

### ②参考資料等

「居住者名簿」カードの様式

※ 活動指導案作成のための準備物：①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

# 活動指導案

実践団体名 田井新町自治会(自主防災会)

## ■基礎データ

① タイトル

広報誌「田井新町だより」で住民への啓発

② 活動の概要

防犯・防災をはじめ地域活動の案内や報告、4コマ漫画、高田の方言など田井新町の住民対象に情報発信  
□発行回数 年3回～4回 □発行部数 425部

③ 目標・ねらい

□地域の絆づくりに役立つ情報を発信する  
□自主防災や防犯活動に関する情報を繰り返し発信する

④ 活動で上げることが  
できる力・能力

□地域活動への理解が深まる  
□自主防災・防犯に関する知識が身につく

⑤ 対象者（受ける側）

田井新町の全住民

⑥ 活動・作業形態

広報誌づくり

⑦ 準備するもの  
（道具、材料等）

原稿（記事にするネタ、写真）、パソコン、パソコンソフト（ワード・イラストレーター等）、コピー機（印刷機）、紙

⑧ 所要時間

発行の1か月前から準備

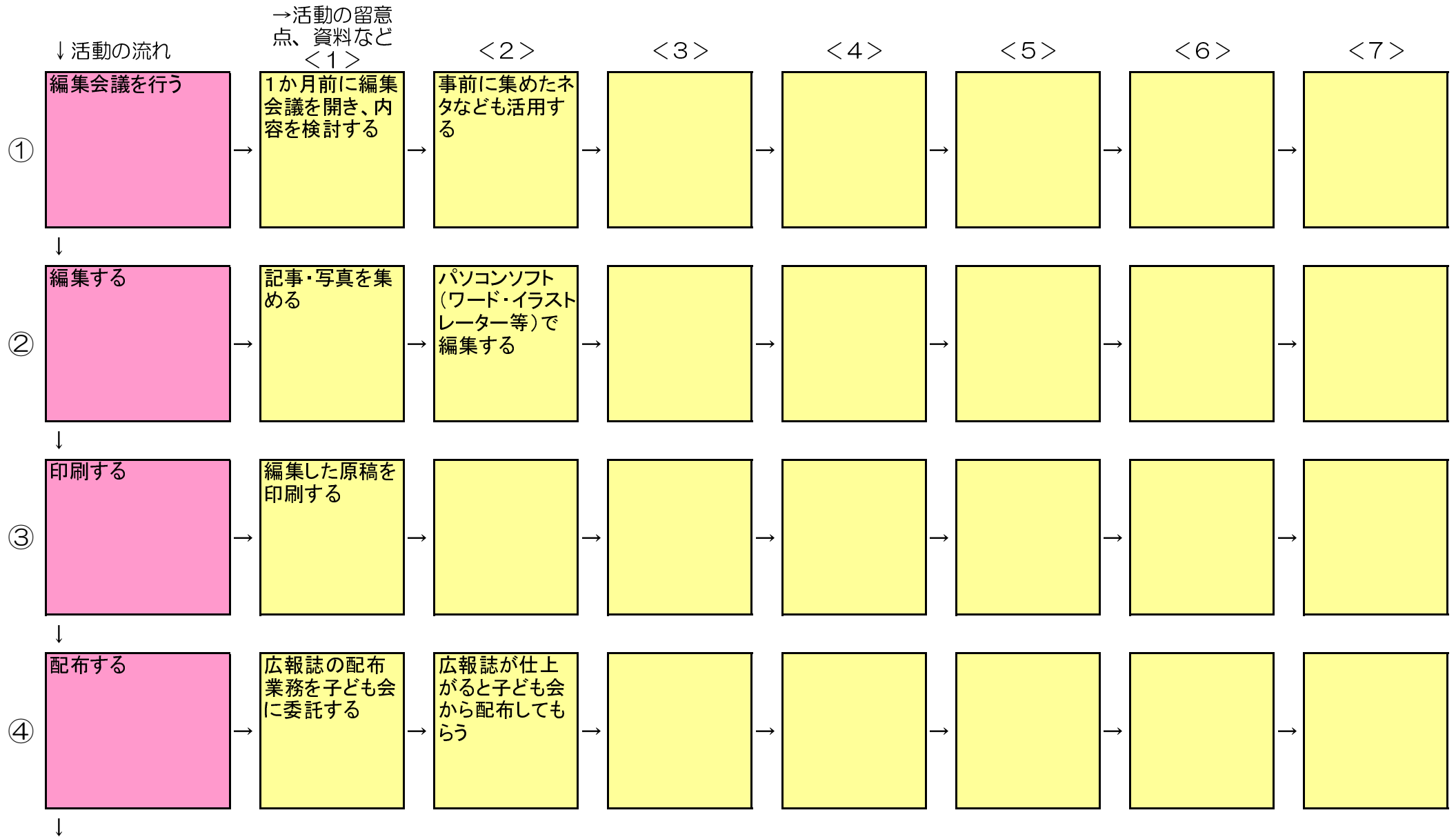
⑨ 必要なマンパワー  
（実施者、役割、人数）

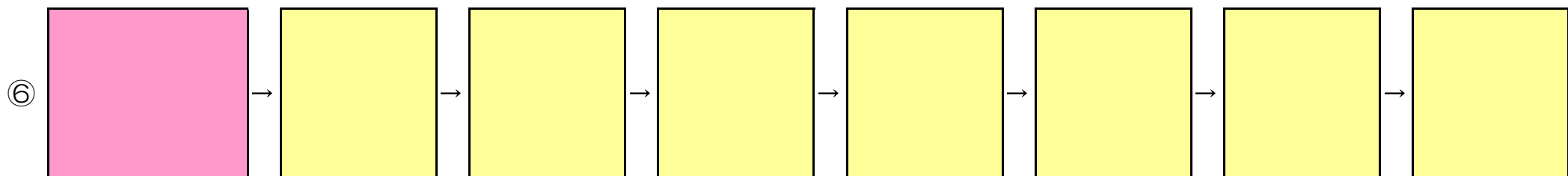
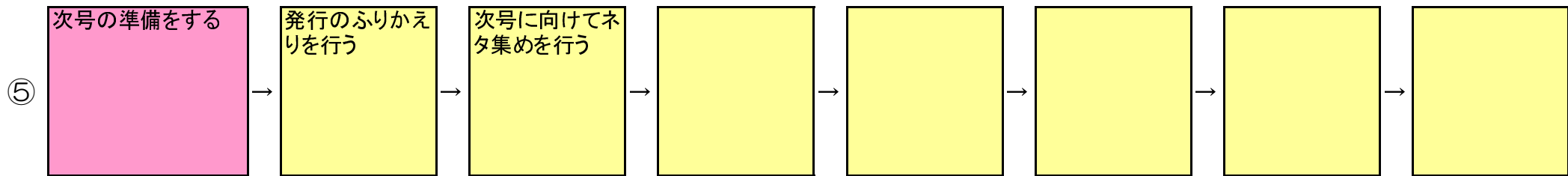
編集委員4人（住民によるボランティア）

⑩ 必要経費  
（所要額、財源）

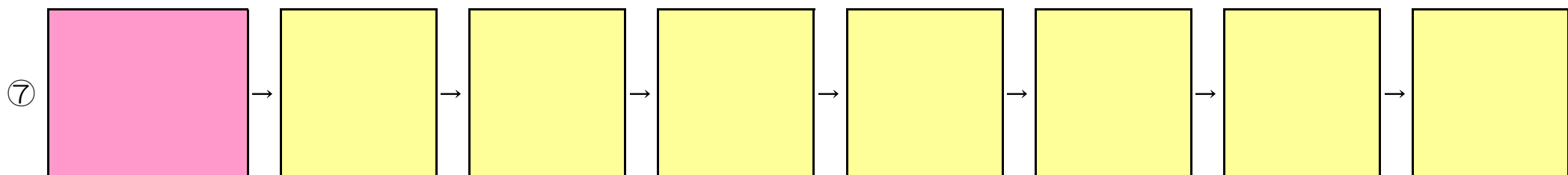
1回あたり6千円（財源：自治会費）

## ■活動の流れ

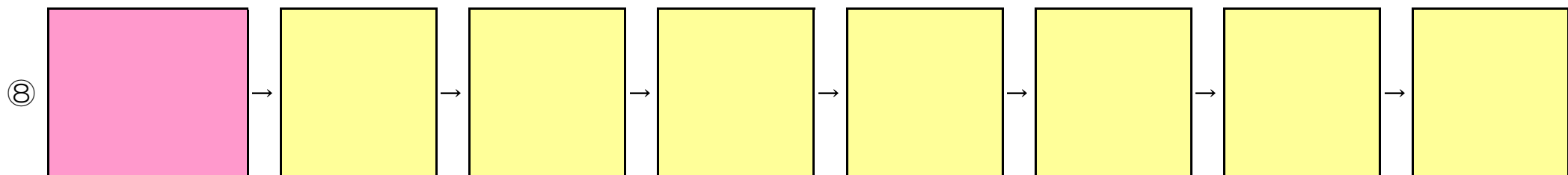




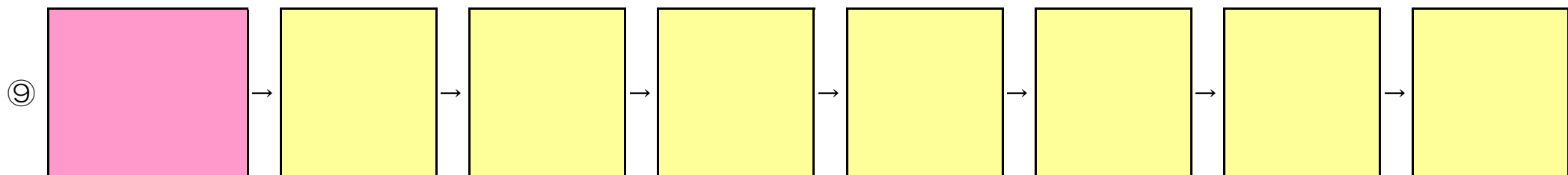
↓

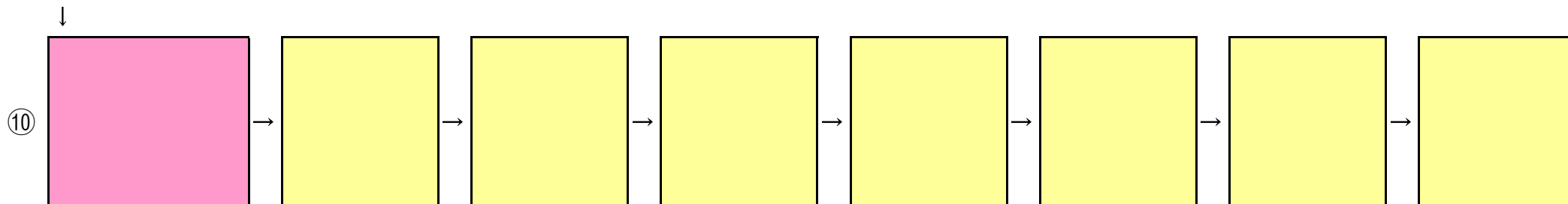


↓



↓





## ■活動の評価方法

### ①数や量の変化による評価

発行回数

### ②その他の評価

- 地域活動への理解
- 自主防災・防犯に関する知識
- 住民からのネタの提供
- 子ども会の活動支援(広報誌配布業務の委託)

## ■備考・その他(活動のコツなど)

### ①活動のコツなど

- 編集委員は地域で公募したボランティアが担う
- 大事なことは繰り返し掲載する
- 広報誌(県・市・田井新町)の配布は子ども会に委託し、子ども会の活動を支援し、併せて自治会の負担を軽減する
- ネタ収集は、①住民の絵画など芸術系ネタは市の市展や高齢者作品展などで写真撮影してくる、②住民からの持ち込みなど

### ②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等